東戸塚本部道場開設記念誌

今後への抱負

関東学院大学合気道部監督　四段
鈴木自転車(株)勤務
練馬相模合気会代表
沼田秀夫

新しい道場の落成、おめでとうございます。私たちの長年の夢だった、湘南合気道連盟の道場が、これからのNEW・CITY東戸塚にできたことは、意義あることだと思います。

今まで私たちが中心に稽古をしていた鎌倉の雲母道場は、狭かったのですが、また、狭いなりに意義のある稽古をしてまいりました。しかし、あまりにも手狭になり、新しい人を仲間に入れにくい状態になっておりました。そんなときに東戸塚に道場ができ、新たに新しい合気道仲間をふやすことができると思います。

私は、雲母道場で朝稽古を担当させていただいています。まだ人数は少ないのですが、そこでも1人、2人と新しい仲間をふやしていきたいと思っております。また、鎌倉では八幡様での稽古が始まり、そこでも新しい仲間がふえております。私はまだまだ未熟ですが、少しでも早く合気道を始めた者として、稽古を通してお役に立てれば幸いと思います。

合気道について思うこと

関東学院女子短期大学指導者四段
日本海事検定協会
白木　誠

合気道を始めて以来、12年の歳月が過ぎていた。この時の流れの中で、私はいくつの事を学んだのだろうか。数りにも多くの事を学んだようで、それを簡単説明することもできない。しかし、一つだけ思うこと、それは、合気道とは、自分自身を表現する一つの手段だということだ。受身にしても、その人の人格、思想、またその時の体調、心境が、全部出てしまう。そして、長い間、合気道を含めて、人生を明確深耕していくことによって、より自分の表現能力が高められていくのでは、ないだろうか。

私はいつも感じてしまう。私より、年上の方が、後から入門されてくる時、彼としては私の方がよく知っているのだが、合気道として、そこに人生の経験の差がでてくることを。これが合気道だと思う。これからも、私は、より多くの人々に、自分を磨えていただきたいと思っている。

今後への抱負

藤沢合気道を指導責任者　四段
鈴木製紙㈱
鈴木康田

藤沢道場内で少年部として始まった藤沢合気道会も、今年で14年目を迎えております。一昨年より稽古の場所を県立青少年会館へと移り、印堂、大場川と一般部、少年部とも稽古に励んでおります。合気道を通して身心の錬磨をさることながら、多くの人々との出会いがすばらしい事だと思います。

世の中が高度情報化社会にむかって生活のスピードはものすごい速さで進んでいます。しかし、社会バランスの中で見てみますとハイテクノロジーの方に心、そして人と人との直接の触れ合いの世界があっても良いのではないかと思います。もし、社会を大きく二種類の大きな流れに分ける事ができるのでしたら、ハイテクノロジー社会に対して合気道の考え方は、これからの社会の一つの流れになるのではないかと考えます。

今回、東戸塚に湘南合気道連盟の新たな本部道場も完成いたしまして、向いっそう合気道の向上発展と、二つの大きな流れのバランス良いすばらしい社会になる事を望んでおります。

湘南合気道連盟本部道場落成にあたり

湘南合気道連盟顧問代　五段
日本特殊合金(株)
横浜市立大学　指導者
熊野隆芳

鎌倉合気道会発足後はや20年余りになりますが、私が入会いたしました昭和40年ごろはまだ会員も少なく、雲母道場もひびの稽古ができたように思います。当時は外国との交流も夢みたいな話でしたが最近では、アメリカ、ドイツ、ニュージーランド、オーストラリア他から多数の人たちが稽古を目的に来日しています。又湘連盟といたしましても、横浜、藤沢、市川、関東学院大学、聖女学院大および横浜市立大等と多数の会員を有するようになりました。今年4月からは鶴岡八幡宮研修道場にても稽古が始まりました。このように会が発展してきたことは大へん喜ぶべきことですが、会員がふえればふえるほど内容が薄らぐ傾向がありますので、今後共義を中心に強い稽古を、武田師範を中心に会員一同一丸となり続けて行きたいと思います。

道場完成を祝って

財団法人合気会師範　八段
湘南合気道連盟　顧問師範
山口清吾

この度横須賀線東戸塚駅より徒歩10数分の地に武田君の道場及び住居が完成した。この事は本人はもとより湘南合気道連盟の諸友諸君にとっても又多年の夢であり念願であった様だ。既に多数の人々に道場熱望の気運があり、それに武君君の特質を活かし念願実行があった。まさに機は熟し時は至っての快挙であろう。都心便利の場所に道場を設る事は望ましいが普通中々出来ない相談である。よくこれを成し遂げた武田君の努力、連盟幹部諸君の協力一致に対して心からの敬意を表しお祝い申し上げる次第です。

実現的成に至る迄には幾多の困難や障害等があったろうと推察されます。本当によくやったと感嘆しております。これも永年にわたり超人的とも思へる強靭精神と努力があったればこそでしょう。いそがしい日常の仕事を立派にこなしながら稽古研鑽を怠らず、その上に優秀な後進を数多く育てて来た成果が今ここに結実したのです。

又これ迄府の人脈が多くの稽古者を集きつけた様に、会員外の方々も魅きつけ、陰に陽に協賛して下さる方迄を得て来た事も大きいと思われます。

この道場の存在は今後湘南合気道連盟の中心として、稽古の向上内容の充実、発展にも一段と飛躍的な効果投創を果すであろう事は疑いなかです。同じ道を歩む者としてまことに頼もしくうらやましいことであります。

思うに短い一時機に情熱を燃やし稽古に打込み精進する事はさして難かしくないし、人も結構多い。だが長い年月に亮んでそれを持続させ、夢の実現に向って着実に進む事は至難の業であり、人も難い。武田君はそれを実践と成すむしろ日常平凡の事として実行して来た、稀有の人である。

どうか今後とも一層初心を忘れず大切にして連盟諸友一同と心を協せて精進精進に努めてほしい。もう一度"おめでとう"とお祝いの言葉を贈っておわりとします。

お礼のことば

湘南合気道連盟師範　七段
武田義信

皆様！　カントーにありがとうございます。お疲様で心おきなく帰ることが出来ました。

私の為って頂きまして、右も左も判らずにウロウロしていた自分が、ナントしたキッカケで合気道に触れ、すばらしい師と友等のお導きを得て、ここまで歩いてこれた事はトテモ不思議であり、又感謝の気持で一杯です。今立っていることの恒も、そして稽古される方々の活気に満ちたエネルギーの満も、いろいろな方々の御支援が無ければ出来なかったことなのでしょう。特に川道館の細川師範をお始めしていろいろ御指導先生の情熱と、心魂を注ぎこんだお導き、又鎌倉支部協会藤巻光様の心広く暖かいお力添えが、どんなに美気づけ、勇気を与えてくれた事かはかり知れません。山口先生は体調迷い鎌倉まで指導に出向いて下さり、稽古人の方が遅い時は帰宅をして待っていて下さり、思い返すと涙や汗がでるような記憶があります。

当初は雲母道場での稽古のみでは物足りず、場所を求めて右往左往し、鎌倉婦人子供会館の道場は子様や、婦人子様にもすい分と親近感を抱かせました。横浜市民礼拝堂が御指導に使えていただき思い出深かったもありました。その微色々の方々に協賛した御支援や、交流の思い出が尽きませんが、いつも有難いと思うのは会員一同ただ稽古がしたい一念で勝手自由の行動ばかりでしたのに、周囲の方々が暖かく見守り育てて下さった事です。

やいと治療者として通用する人材も多く育ち、ほとんど毎日どこか少で稽古できる環境になってきました。こんなに恵まれた状態を前にしては、言に表しあらわるるやスベなし。

この東戸塚の道場は、対応治療師の中央研修機関として、ご縁ある方々との交流親睦、相互補完の場として有効活用を心がけさせていただきますので、今後共御指導御鞭撻を切に願い申しあげる次第です。

最後に、新道場建設の資材を提供してくれ、献身的な活動で道場を完成に導いてくれた道場建設委員会の幹部諸方に改めてはじめ多員の方々、大きな方向性をつけて下さった大石向子会長（当連盟）、そして度重なる難かし迷又にも揺らがず正道な道場をつくりあげて下さった産業ホール(株)の中西さん、鈴木さんに心から御礼申しあげる次第です。

皆様のご幸福とご繁栄をお祈り申しあげます。

合　掌

オーストラリアの Bruce Lowes 先生が、東戸塚道場開設の際に発行された記念誌のスキャンを送って下さいました。貴重なデータだと思います。御覧頂けますように、先生方の写真がとても若い！また文章にも当時の盛り上がりがにじみ出ているように思います。かめたけさんの文章は昔から変わらない感じですが。

新道場の完成を祝す

八幡合気会　会長
宇野忠夫

このたび湘南合気道連盟本部道場が東戸塚に完成をみましたことは関係者多年の願望が達せられたことと心から衷心の賀を表するものです。

これまで連盟傘下の各団体に於ではそれぞれ練習の施設内の道場を使って、時に不便を忍んで稽古に励みつつ練成を重ね新道の普及にも努めておったわけですが、今回、合同練習のできる合気道専用道場の建設をみましたことは大変嬉しいことです。

近年青少年の育成面が対下の急務として教育の分野から、更に社会問題として取りあげられている折柄、本道場の建設をみましたことは今後連盟の発展達成の上で一層の期待が持たれるものと存じます。

終りに新道場建設に際し大変ご尽力を図った武田先生始の各位に深謝の意を表し本誌のご発展を祈りお祝いの辞といたします。

合気道稽古に思う

八幡合気会指導責任者　四段
宝輪工業(株)　代表取締役
高橋茂穂

合気道を始めるいきっかけは中学校に入ろうとしていたが、当初社会人となり道場の近くの病院になればという軽い気持で始めたものがここまで続けさせたのは、道場の武田師範の指導及び道場関係の雰囲気の良さによるところが非常に大であったと思う。

一方、稽古そのものについて振り返って見ると、初心者の頃は技の形を覚えなければと懸命で一回一回の稽古が老け過記憶を与えてくれた。その後技の形も一通り覚え又各技の深さを知り、各技の本質を自分なりに把握したつもりか、稽古相手からの感触又は先輩諸の技を見るにつけ自分なりに感じていた気無が又はるか遠くに行ってしまうというパターンが何回となく繰り返され、現在も又それが続いている。自分の技に対する気迫が弱くなったり霧の状態になったりというのが実情である。

しかしながらこれが又今まで稽古を続けさせた源泉となっているのかも知れない。

これからも少しでも技を究める為、稽古相手に素直に吞見させられる気持を持ちながら謙虚謙虚の心構えを持って稽古に励んでいきたい。

伸ばすべき個性と管理社会

少年部指導担当　四段
フリーカメラマン
武田　聡

今日の進一昨年均化された時代に育つ少年達は、昭和30年代に幼年期をすごした私の経験とは、まったく別の世界だ、おかれていると思います。学歴重視の社会体制と進学熱に象徴される現代少年達の生活に合気道の修行とは、なにを、もたらすことが出来るのであろうか。人には、長所短所はだれにでも有るわけですが、大人達は少年の短所を指摘し矯正するわけですが、私には稽古を通し、少年達に教えられる事が沢山あります。そのひとつは、長所を伸し進めることが、少年本人が短所を自から知り、長所をもって短所を直し成長して行く少年が多いと、いうことです。少年の心は白いキャンバスのような物で本人が描くべき絵を管理社会が勝手に下絵を描いてしまい、少年は戸惑と不安に心を悩ませ、本来持っている、等しくあたえられた人間の生命力、本能的力を思い出せずに育っていると私は観ています。厳しい稽古を通し観察すると、自己本来の力に早く気付き意欲的な者、反応のおそい者など、少年それぞれ、進歩のスピードはちがいますが、その成長のスピードに指導者が合せ後押しを、するのが稽古の、ひとつの有り方と考えます。また学校も学年もちがう少年達どうしの個性の尊発の中にこそ、真の心のふれあいの場としての合気道の姿が有ると信じ、合気道を人間開発の一手段として、これからも少年達と共に稽古に、はげみたいと思います。

合気道に対する今後の抱負

金曜初練会指導者四段
折金時
渡辺研治

金曜の朝は横浜市大の道場で、主に大学生を対象とした稽古が行なわれている。春や夏の早朝は気分も爽快である。しかしもともとなまけ癖が強く、なかなか起床できない。何故こんな馬鹿くから合気道などしなければならないのか、などと自問しながら家を出る。冷たく高鳴い道場、扉のかけする手が凍りそうである。いざ稽古開始、凍きで硬った背がコンクリートの硬い壁きで肌にぶつかってくる。やがて30分も過ぎる頃には、寒さや身体の痛みも一切忘れて稽古に熱中している。早いものでもうすぐ1年になる。新年の春、武田師範から指導を任されたときは正直なところ、少々気が重かった。今ふり返ってみて思い出深い指導者であったかどうか疑問が残る。しかしこれからも師範の指導を仰ぎながら、元気の良い少年達と想いきり身体をぶつけ合って、共に強い汗が流せたら私としては最高なのである。